Library Liébana

2023年3月度展示内容のお知らせ

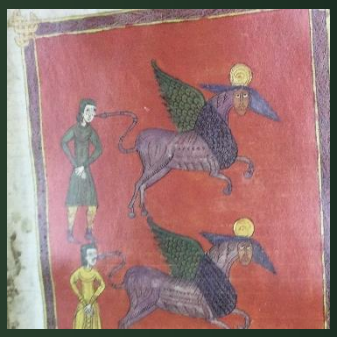
【今月のベアトゥス写本】

今月は、ベアトゥス写本群のなかで、系統Ⅰ群の旧版に分類されている写本５点を展示します。
（大野松彦作図　P.K.クラインに基づく翻案図より）
この系統の写本はそれぞれの写本の挿絵に強い個性があります。

（エスコリアル写本 10世紀末頃）

（ナバーラ写本 12世紀末）

（リスボン写本 1189年）



（オスマ写本 1086年）

（コルシーニ写本　12世紀初頭）

【聖書関係以外の写本】

（カノッサのマティルダ伝
1115年 ）

（動物寓意集
1225-50年）

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界
中世彩色写本を紹介

Google Map

愛知県豊田市西町5丁目５
VITS豊田タウン　B1F
毎週日曜日　10:30～17:30

H.P.

Instagram

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

3月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
（HPで確認下さい）

						3月
日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

19日(日)、26日(日)はお休み、
3日(金), 23日(木)は午後からです

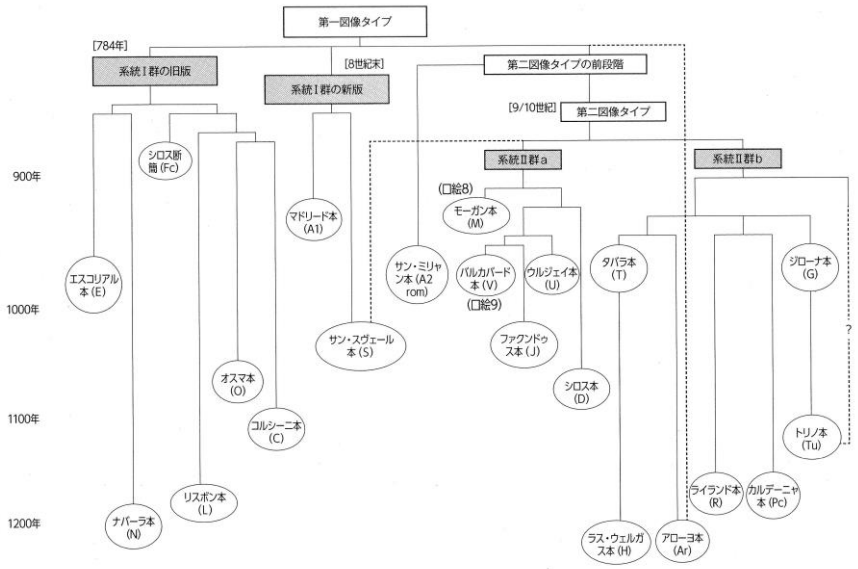
ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアトBeato ？-798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。
本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。 ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。
1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気を味わってください。

今月の展示写本

ベアトゥスの写本群の系統図はいくつか発表されていて、右図はP.K.クラインが提唱するものを大野松彦博士が作図した翻案図です。
ベアトゥスの黙示録註解書は第1版が776年、第2版が786年(又は784年)、第3版が8世紀末に書かれたということです。
今回は右図でいう系統Ⅰ群の旧版に属する5点の写本を展示します。
系統2との大きな違いは、黙示録本文の前後の挿絵で、キリストまでの系譜とダニエル書の挿絵がないということです。



図表　ベアトゥス黙示録（9~13世紀）の系統図（P. K. クライン［1976］に基づく翻案図）　［大野松彦作図］

【エスコリアル写本】
人物の顔の描き方に特徴があり、鼻と片方の眉がほぼ直角の直線で描かれ、大きなしずく型の目が特徴。
また、特に印象的なのは、大きくてギザギザの翼を持つ天使の姿です。その羽根が挿絵の額縁に収まりきらず、はみ出して描かれているのが特徴

【ナバーラ写本】
挿絵の地に使われている紫色が特徴の写本。ロマネスク様式を色濃く残しています。

【リスボン写本】
この写本も挿絵の地の色に特徴があり、黄色とオレンジの蛍光色が目を引きます。

【オスマ本】
挿絵は濃い赤や黄と共にエメラルドグリーンや薄青の背景色が特徴です。特にエメラルドグリーンは他に例を見ない美しい色調です。

【コルシーニ写本】
ベアトゥス写本の中でも縦 17cm 横 9.5cmと一番小さな写本です。
　挿絵は8点と残存するものが少ないが、絵は逆にモサラベ様式のものが7点でロマネスク様式は1点のみです。

【その他の写本】
【カノッサのマティルダ伝】
神聖ローマ皇帝とローマ教皇とのキリスト教的世界秩序の首位権争いを象徴する有名な事件「カノッサの屈辱」（1077）を挿絵とともに伝える貴重な同時代史料。
このときのカノッサ城主が女伯マティルダであった。彼女は皇帝のいとこにあたったが、ローマ教皇の熱烈な崇拝者でもあった。バチカンに残る細密画の示唆するところでは、皇帝はある修道院長を通じてマティルダに懇願したらしい。

【動物寓意集】
　1225年から1250年頃に制作された動物図鑑のような写本です。当時のイギリスではこのような写本が流行っていたようです。
　陸上の獣・空を飛ぶ獣・海の獣に分けられて、それぞれ野生動物から空想上の幻想的な獣までその習性と特徴とをキリスト教的教訓とを結びつけて、そこに寓意や諷刺を込めた内容となっています。